

徒然草「家居のつきづきしく」板書案

家居……「つきづきしく
あらまほし

飯の宿りとは思へ……無常観
⇔ (逆接)
興あるものなり ……人の営みへの関心
↑
価値観の二面性

心にくき家（よき人のどやかに住みなしたる所）

わびしき家

・今めかしく、きららかならず
・木立もの古る
・わざとならぬ庭の草も心あるさま
・簀子、透垣のたよりをかし
・うちある調度も昔覚えて安らか

・前栽の草木まで心のままならず作りなせり
・多くの工の、心を尽くしてみがきたて、唐
の、大和の、珍しく、えならぬ調度

↑
自然重視・懐古趣味

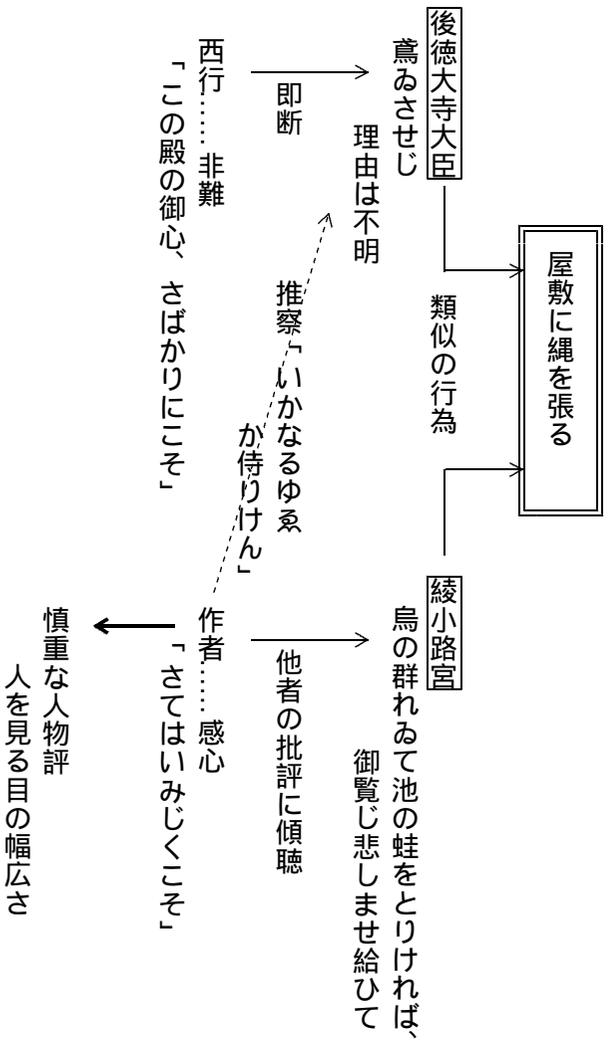
↑
人為的・華美

無常
さてもやは長らへ住むべき……人の命のはかなさ
時の煙ともなりなん……家居のはかなさ

大方は、家居にこそ、ことごまは推し量らるれ
↓断言は避ける

作者の人間洞察の着眼

具体的逸話



語句事項

(=今めかしからず)

今めかしく、
きららかなら・ね・ど

打消の助動詞「ず」の已然形

唐の
大和の
珍しく(き)
えならぬ
調度ども

係助詞「やは」「かは」……ほとんどが「反語」の用法

強意の助動詞「ぬ」の未然形
↓
推量の助動詞「ん」の終止形
煙・と・も・なり・な・ん

助動詞	強意+推量	完了+過去
「つ」	して・ん	して・き
「ぬ」	な・ん	に・き
	して・べし	して・けり
	ぬ・べし	に・けり

格助詞「より」……注意すべき用法

經由 「名詞(場所)+より」 ↓ を通って
手段 「名詞(交通手段)+より」 ↓ で
即時 「連体形+より」 ↓ するとすぐに

↓ 仮定の助動詞「ん」の連体形
鳶・の・い・たら・ん・は

助動詞「ん(む)」の用法

推量	一人称	文末	「む+名詞」
意志	三人称		
勧誘	二人称	文中	「む+助詞」
仮定	婉曲		

原則

↓ 断定の助動詞「なり」の連用形
さばかり・に・こそ・おはし・けれ

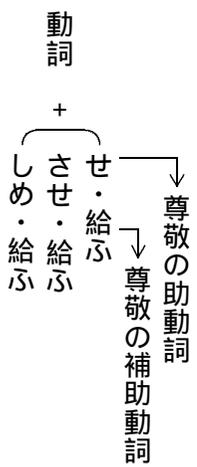
「あり」の尊敬体

敬語の種類と敬意の対象

尊敬語 動作の仕手に対する敬意 「おはします」「御覧す」
謙譲語 動作の受け手に対する敬意
丁寧語 聞き手（読者）に対する敬意 「侍り」（補助動詞）

敬意を示すのは、全て情報の発信者（書き手・話者）

二重敬語（最高敬語）



過去の助動詞

「き」……経験回想
「けり」……伝聞回想